〈学習するみなさんへ〉

この教材は、社会で起こっているできごとに関心を持ち、そのできごとについて考え、要約します。要約することを通じて、表現力を育むことを一番の目的としています。一般的な教材のように◯×で評価する教材ではありません。評価基準を次の４つに設定します。S・Aを目指して学習を進めましょう。

S　とてもよくできている。（解答例と同じか、ほぼ近いことが書けている。）

A　よくできている。（意味のとれる文が書けているが、ポイントとなる語や内容がぬけている。）

B　がんばっている。（文の内容が読み取りにくく、ポイントがずれてはいるが、何とか文を書こうとする努力が見られ、完成させている。）

C　もう少しがんばろう。（何も書いていない。あるいは、文が完成せず、途中で終わっている。）

〈学習ポイント〉

- 要約力・表現力を身につけるためには集中力が必要です。１ページ10～20分を目安に学習しましょう。
- 自分の書いた文章をもう一度、読み直す習慣を身につけましょう。
- わからない言葉は辞書などで調べましょう。

〈目次〉

第１回　野生生物があぶない
絵を見て・・・・１
資料を見て・・・・２
要約する・・・・３
表現する・・・・４

第２回　エネルギー問題
絵を見て・・・・５
資料を見て・・・・６
要約する・・・・７
表現する・・・・８

第３回　食料と水の問題
絵を見て・・・・９
資料を見て・・・・10
要約する・・・・11
表現する・・・・12

第４回　日本の農林水産業
絵を見て・・・・13
資料を見て・・・・14
要約する・・・・15
表現する・・・・16

第５回　福祉問題
絵を見て・・・・17
資料を見て・・・・18
要約する・・・・19
表現する・・・・20

第６回　人口問題
絵を見て・・・・21
資料を見て・・・・22
要約する・・・・23
表現する・・・・24

第７回　環境問題
絵を見て・・・・25
資料を見て・・・・26
要約する・・・・27
表現する・・・・28

第８回　税金について
絵を見て・・・・29
資料を見て・・・・30
要約する・・・・31
表現する・・・・32

第1回　野生生物があぶない
絵を見て

日　分～分

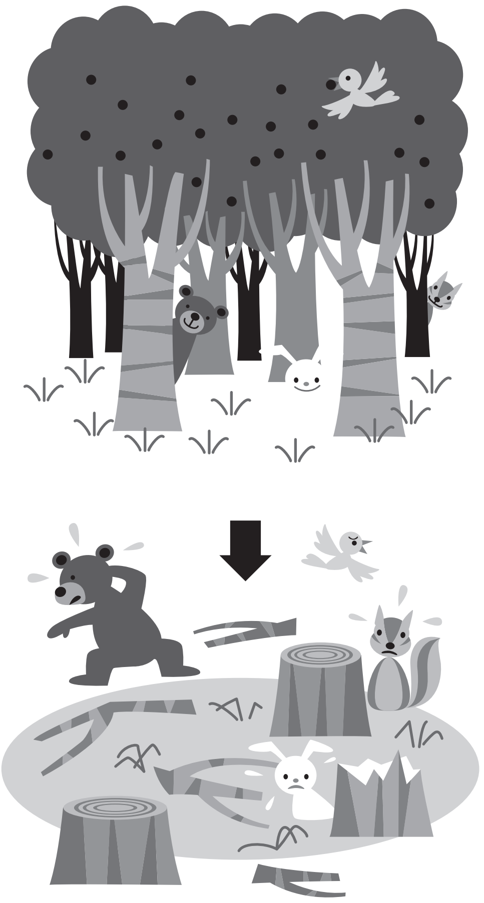
月　時　時

次の文を読んで、あとの質問に絵を見て答えましょう。

初回は「野生生物があぶない」というテーマで学習をすすめていきます。一言で「野生生物」と言っても、地球上にはさまざまな種類の生物が住んでいます。わたしたち人間などのほ乳類、トカゲやヘビなどのは虫類、ハトやカラスなどの鳥類、カエルなどの両生類、タイやヒラメなどの魚類、カブトムシやチョウなどの昆虫。植物もいれば、微生物や細菌も生物です。地球は「野生生物の宝庫」と言ってもよいでしょう。しかし、その野生生物が今、危険な状況におちいっています。一体、何が起こっているのでしょうか。

(1)　次の絵はどのようなことを表していますか。「人類」、「生活」、「便利」、「環境」という言葉を使って書きましょう。

(2)　次の絵はどのようなことを表していますか。「森林」、「すみか」という言葉を使って書きましょう。



第1回

野生生物があぶない 資料を見て

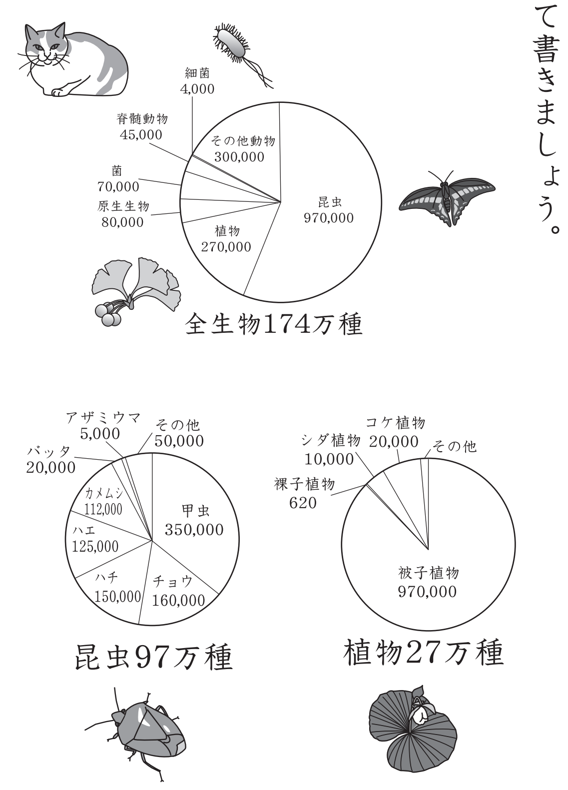
日 分 ～ 時 分
月 時

資料を見て、あとの質問に答えましょう。

(1) 次の資料は、地球上にいる生物の数を示したものです。この資料を見て、わかることを二つ、一つは昆虫について、一つは植物について書きましょう。

生物多様性円グラフ

現在、私たちが把握している生物の種類数のうち植物は15%を占める。



(2) 次の資料は、「日本における絶滅のおそれのある野生生物数」を表したものです。「絶滅」と「絶滅のおそれのある種」の合計数を計算して書きこんだうえで、資料からわかることを書きましょう。

	絶滅	野生絶滅	絶滅のおそれのある種
動物	47	3	1338
ほ乳類	7	—	34
鳥類	14	1	97
は虫類	—	—	36
両生類	—	—	22
魚類	3	1	167
昆虫類	4	—	358
貝類	19	—	563
その他	—	1	61
植物など	66	12	2259
合計		15	

(「日本国勢図会2013／14」より作成)

第1回

野生生物があぶない 要約する

日 分 ～ 時 分
月 時

(1) 次の文章を百二十字以内で要約しましょう。

「レッドリスト」という言葉を聞いたことがありますか。「レッドリスト」とは、絶滅するおそれのある野生生物の名前を集めた表です。IUCN(国際自然保護連盟)という組織が、世界中の絶滅の危機にある動物を選び、「レッドリスト」を作成しています。

「絶滅する」ということは、「すっかりほろびて絶えてしまう」ということを意味しています。つまり、ある野生生物が地球上からまったく消えてしまうことです。

「レッドリスト」には現在、約二万種の野生生物がのせられています。人類は、ほ乳類に分類されますが、レッドリストに登録されているほ乳類は約一一五〇種です。これまでに存在が認められているほ乳類が約五五〇〇種なので、今、生きているほ乳類の約五分の一が絶滅の危機にあるといえます。

(2) 次の文章を百二十字以内で要約しましょう。

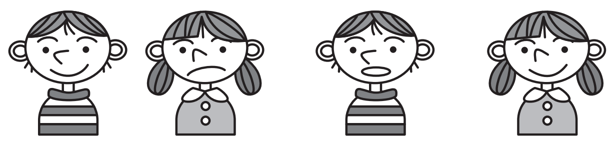
約二万種もの野生生物が絶滅の危機にある理由の大部分は人間の活動によるものです。人間は肉や毛皮、角や象牙を得るために、多くの野生生物を獲ってきました。また、木材を得るために木を切り過ぎるなどして、野生生物の住む場所をうばってしまいました。外来種が増えすぎたことも一つの原因です。人間がペットなどとして持ちこんできた外国の動物たちが、捨てられたり、逃げ出したりして野生で繁殖したため、もともとその国にいた種類の生物が住めなくなりました。人間が豊かな生活を求めて、エネルギーを大量に消費したために起こっている地球温暖化や酸性雨などの環境破壊の問題も、もちろん、野生生物を絶滅の危機に追いやっている大きな要因です。

生き物は「食う・食われる」の関係でお互いに影響をし合いながら生きています。ある種が絶滅すると、今まで「食う・食われる」の関係にあった動物たちが次々と影響を受けて、絶滅していきます。

第1回 野生生物があぶない 表現する

月　日　時　分～　時　分

次の会話文を読みましょう。



「今、多くの野生生物が絶滅の危機にあることがよくわかったわ。」

「地球には、約一七五万種類の生き物がいて、お互いにつながりをもって暮らしているんだ。だから、ある種類の生き物が絶滅するということは、大きな問題なんだ。」

「絶滅の危険がある野生生物を守るために、どうすればいいのかな？」

「ぼくがまとめてきたものがあるから、見て。」

野生生物を守るために、日常生活でできること。

1 省エネにつとめる

電気やガス、水道の使いすぎは、地球温暖化の原因になる。地球温暖化が進むと、環境が変わり、影響を受ける生物も多い。

2 むだなものをなくす

たとえば、紙のむだづかいは、野生生物が住む森林破壊につながる。物を大切に使うことを心がける。

3 ゴミを減らす

ゴミは最終的には、土の中や海など、地球のどこかに捨てることになる。ゴミ捨て場のまわりは、環境が変わってしまい、野生生物が住みづらくなる。

「野生生物を守るために、わたしたちにもできそうなことがいっぱいあるわね。」

「ぼくたちみんなが協力することで、地球の環境がよくなって、野生生物も住みやすくなると思うよ。」

「地球は、地球に住む生き物みんなのものであることを考えなければならないのよね。」

今回の学習を通じて、あなたの考えたことを自由に書きましょう。

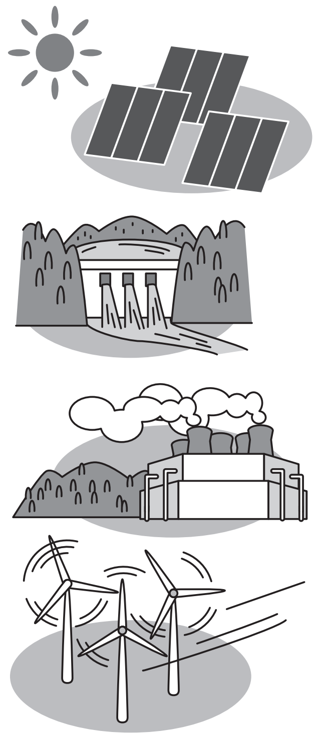
第2回 エネルギー問題 絵を見て

月　日　時　分～　時　分

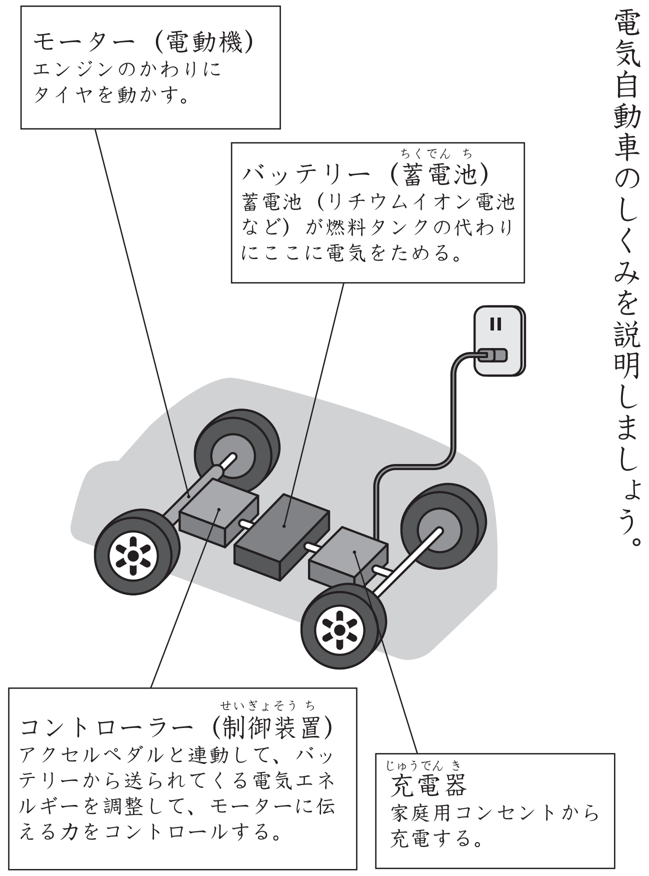
次の文を読んで、あとの質問に絵を見て答えましょう。

今回は「エネルギー問題」について学習します。「エネルギー」という言葉を聞いて、どんなものを想像しますか。「電気」、「石炭」、「石油」。最近では、太陽のエネルギーがいろいろと話題になっていますね。エネルギーは、わたしたちの生活に欠かすことのできないものですが、「石炭」や「石油」、「天然ガス」など、わたしたちが今たよりにしているエネルギーには限りがあって、あと数十年でなくなってしまうと言われています。このようなエネルギーに代わる「新エネルギー」の開発が急がれています。

(1)　次の絵は今、開発がすすめられている新エネルギーを示したものです。どのようなエネルギーの開発がすすめられているか、そのエネルギーの特徴を考えて、書きましょう。



(2)　次の絵は電気自動車のしくみを表したものです。絵からわかる電気自動車のしくみを説明しましょう。



成長する思考力国語バージョン

Growing power of Thinking

要約力 特化

解答例と評価基準

【答え合わせをするにあたっての注意】

この教材は、子どもたちが社会に起こっているできごとに関心を持ち、そのできごとについて、どのように考えるかを文章にすることを通じて、**子どもたちの生きる力を育むことを一番の目的**としています。そのため、評価基準を次の４つに設定します。

S　とてもよくできている。
A　よくできている。
B　がんばっている。
C　もう少しがんばろう。

それぞれの基準は、次のようになります。

S　解答例と同じか、ほぼ近いことがポイントを押さえて書けている。
A　意味のとれる文が書けているが、ポイントとなる語や内容がぬけている。
B　文の内容が読み取りにくく、ポイントがずれてはいるが、何とか文を書こうとする努力が見られ、完成させている。
C　何も書いていない。あるいは、文が完成せず、途中で終わっている。

各回、【解答例】【評価基準】を示しています。【解答例】では、キーワードになる文字を赤字にしています。このキーワードが入っているかを参考に【評価基準】を読んでいただき、S～Cの評価をしてください。

【学習時間について】

この教材は、４つのテーマに分かれています。各テーマの想定時間は次のようになっています。

1　絵を見て　(10分～15分)
2　資料を見て　(10分～15分)
3　要約する　(15分～20分)
4　表現する　(15分～20分)

時間に関しては、あくまでも目安です。学習者の状況に応じて、時間は決めてください。(例えば、「1回の学習で1テーマだけ学習」など。)

第1回　野生生物があぶない　絵を見て　1ページ

【解答例】

(1) (1)　人類は、生活を豊かで便利にするために、地球の環境(かんきょう)をよごしている。
(2)　木が切り倒されて森林がなくなると、多くの生物がすみかをうばわれる。

【評価基準】

絵を見て、わかったことを文章で表すという課題です。

(1)　S　キーワードを使って「人類が自分たちのために地球の環境をよごしている」という内容が書けていれば、「S」評価とする。
A　「人類は環境をよごしている」「人類は自分勝手なことをしている」など、「S」評価の内容に言葉が足りない場合。
B　「工場からけむりが出ている」「自動車が排気ガスを出している」など、キーワードが欠落し、絵の一部を見たままに説明している場合。
C　「工場のけむりや排気ガス」など、文が完結していない、あるいは何も書けていない。

(2)
S　キーワードを使って「森林がなくなると、多くの生物がすみかを失う」という内容が書けていれば「S」評価とする。
A　「森林は生物にとって大切だ」など、内容は合っているが、すべてのキーワードが使われず、S評価に少し言葉が足りない場合は「A」評価とする。
B　「動物がこまっている」など、表現はつたないが、絵の内容の一部が説明されている場合は「B」評価とする。
C　「森林と生物」など、主語がなく文が成立していない場合や何も書けていない場合は「C」評価とする。

第1回　野生生物があぶない　資料を見て　2ページ

【解答例】

(1)
・植物の中で最も種類が多いのは被子植物で二十三万五千種いる。
・動物の中で最も種類が多いのは昆虫で、その中でも最も種類が多いのは甲虫である。

(2)
絶滅種　113　絶滅のおそれのある種　3597
日本ではすでに百種類以上の生物が絶滅をし、今後、絶滅のおそれのある生物が約三千六百種もいる。

【評価基準】

資料から読み取れることを文章で表すという課題です。

(1)
S　解答例のように、三つのグラフの関連性を読み取って、資料から読み取れる特徴的な内容が二つ正確に書けていれば、「S」評価とする。
A　グラフの内容を読み取って書けているが、例えば、「シダ植物は一万種である」「甲虫は三十五万種もいる」など、内容が細かく、広い視点で見られていない場合は「A」評価とする。
B　グラフの内容を書こうとしているが、正確に読み取れていない場合や、文の意味が取りづらい場合。あるいは「昆虫が多い」など、表現が大まかである場合。
C　「動物と植物のグラフ」「たくさんの昆虫」など、文が完結していない、あるいは何も書けていない。

(2)
S　解答例のように、表に書かれている内容について、正しい数値を示しながら書けていれば「S」評価とする。
A　「日本では、多くの生物が絶滅し、今後絶滅の危険がある生物も多い」など、正しいことは書いているが、数値が示されていない場合。
B　表の内容を書こうとしているが、正確に読み取れていない場合や、文の意味が取りづらい場合。「絶滅した生物が多い」など、内容がうすい場合。
C　「絶滅した生物」「絶滅の危険がある生物」など、文が完結していない、あるいは何も書けていない場合。

第1回　野生生物があぶない　要約する　3ページ

【解答例】

(1)
レッドリストは、IUCNという組織が、世界中で絶滅の危機がある生物を選んで示したものである。レッドリストには、約二万種の野生生物がのせられており、人類も属するほ乳類では、今、生きているなかの約五分の一が絶滅の危機にある。（百十字）

(2)
野生生物が絶滅の危機にある理由の大部分は人間の活動によるものである。多くの野生生物をとったこと、野生生物の住む場所をうばったこと、人間が地球環境を悪くしたことなどがその理由である。また、ある種の生物の絶滅は別の種の生物の絶滅をもひきおこす。（百二十字）

【評価基準】

まとまった文章を指定字数内で要約するという課題です。

(1)
S　「レッドリスト」「IUCN」という名称を用いて、レッドリストがどのようなものかを説明されていることが一つ目の評価の基準。次に約二万種の野生生物がのっていること、ほ乳類についての記述があることが二つ目の基準で、これらがある程度示されていれば、「S」評価となる。
A　「S」基準の内容のうち、どちらか一方しか書かれていない場合。両方のことは書かれているが、文章がわかりづらい、数値が欠落している場合。
B　一生懸命書いてはいるが、文章の意味がほとんど取れない場合。字数が五十字未満で、書かれている内容がうすい場合。
C　文章として成り立っていない場合。字数が三十字未満で、やる気が感じられない場合。

(2)
S　「野生生物が絶滅の危機にある大部分は人間の活動による」という記述が一つ目の評価基準である。次に、その内容を簡潔にまとめていることも基準になる。「ある種の生物の絶滅が別の種の絶滅をもひきおこす」という内容については、かなり難しいので、なくても「S」評価をあたえてよい。
A　「S」基準の内容のうち、どちらか一つしか書かれていない場合。両方の内容にふれようとしているが、文章が論理的にまとめられていない場合。
B　一生懸命書いてはいるが、文章の意味がほとんどとれない場合。字数が五十字未満で、書かれている内容がうすい場合。
C　文章として成り立っていない場合、字数が三十字未満で、やる気が感じられない場合、何も書けていない場合は「C」評価となる。

第1回　野生生物があぶない　表現する　4ページ

【解答例】

野生生物について学習し、わたしは非常にたくさんの野生生物が絶滅の危機にあることを知って、とてもおどろきました。そして、多くの野生生物が絶滅の危機にある理由が人間の活動によるものだと知って、残念に思いました。だから、わたしは野生生物を守るために、できることをやっていきたいと思っています。地球の温暖化をくいとめるために省エネにつとめることや、むだなものをなくすこと、ゴミを減らすことは、心がけしだいでできることだと思うので、実行していこうと思います。

【評価基準】

最後の課題は、今回の学習を通じて考えたことを書くというものです。
S　自分の考えを書くのだから、子どもが素直な気持ちで書いたものはできるだけ高い評価をしてあげるようにする。テーマにそったもので、読み取れる内容が書かれていれば「S」評価となる。
A　まとまった量を書き、一生懸命書いていることが感じられるが、内容がテーマにずれている場合、意味が取りづらい場合は「A」評価である。
B　書かれている文字数が少なめで、内容がうすいが、一応は作文として成り立っている場合。多くの文字数は書いているものの、文章の内容がほとんど読み取れない場合は「B」評価となる。
C　内容がうすくて、書こうという意欲が見られない、文章が完結していない、何も書けていない場合は「C」評価である。

第2回　エネルギー問題　絵を見て　5ページ

【解答例】

(1)
今は、太陽光や水、風、地熱など、限りのない自然エネルギーを利用した発電の開発がすすめられている。

(2)
充電器によって家庭用コンセントから充電された電気は、バッテリーにためられ、コントローラーで調整されたあとタイヤを動かすモーターに送られる。

【評価基準】

絵を見て、わかったことを文章で表すという課題です。

(1)
S　「太陽光」「水」「風」「地熱」のうち三つ以上が書けていれば「S」評価とする。「限りのない自然エネルギー」という言葉はなくても可とする。
A　「自然のエネルギーが利用されている」など、表記がおおまかであるが、正しいことが書かれていれば「A」評価。
B　「いろいろな発電がある」のように、文は完結しているが、ポイントがずれている場合は「B」評価。
C　「太陽光発電」「水の利用」など、文が成り立っていないもの、何も書いていないものは「C」評価。

(2)
S　「充電器」「バッテリー」「コントローラー」「モーター」という言葉がふくまれていて、それぞれの関係について、ある程度説明されていれば「S」評価。
A　「S」評価に必要な四つの言葉のうち二つか三つを使い、電気自動車について、ある程度説明されていれば「A」評価。
B　「S」評価に必要な言葉のうち一つしか使われておらず、説明が部分的なものは「B」評価。
C　説明が論理的でなく意味が伝わらないもの、何も書けていないものは「C」評価。